

2020 年 8 月 29 日～30 日 泉大津フェニックス

RUSH BALL 2020

実施報告書

[第 3 項]



RUSH BALL 2020

英語 / ENGLISH

Even here in an island country like Japan, we are living through the COVID-19 pandemic times troubled by restrictions on food, sleep and daily life, but also finding together new ways to have fun and feel joy.

Everywhere in the world, we're probably influenced by sounds from other countries, starting by imitating them and generating new music.

In the summer of 2020 in Japan, while being limited by various restrictions, RUSH BALL has been able to hold its annual outdoor festival. As part of the outdoor events scene in nowadays Japan, we did our best to be able to give people the possibility to bath into music.

In 2018, RUSHBALL crossed the sea, and travelled from the venue of Izumiotsu Phoenix in Osaka to Taiwan, where many music lovers are.

Thinking back on all the memories and the high energy born from the long history of RUSHBALL since 1999, including this Taiwan event, is actually the main reason that triggered us into deciding to hold the event in Osaka this year, in spite of the difficult situation.

We had to overcome some hurdles like the limit on the number of people attending, the stage performance requirements, or some negotiations with the citizens and the government, but we were finally able to build a space where people could play and listen to music as much as they wanted.

We are part of this challenge, right now in Japan, to put back on track the possibility of playing music for a crowd of visitors at music venues.

We think that there are many measures that can be adopted against viruses, not limited to COVID-19. We hope that a new way of sharing music will be found as soon as possible. And when the whole world will be accessible again without any restriction, we would love to cross the sea and introduce Japanese music to everybody.

There is always more than one way to do something !

RUSH BALL 2020 Producer Rikitake, from GREENS

フランス語 / FRANCAIS

Même dans un pays insulaire comme le Japon, nous traversons ces temps de pandémie troublés par les restrictions sur la vie quotidienne. Mais nous trouvons également, ensemble, de nouvelles façons de nous amuser et de nous sentir heureux.

Comme probablement partout ailleurs dans le monde, nous sommes influencés par la musique d'autres pays, nous la copions d'abord, puis en faisons sortir de nouveaux sons.

A l'été 2020 au Japon, malgré les nombreuses restrictions, RUSH BALL a été en mesure de tenir comme chaque année son festival en extérieur. Nous avons fait notre possible pour que les gens puissent prendre leur dose de musique grâce à ce genre d'évènement.

En 2018, RUSHBALL a décidé de traverser les mers, et de voyager de son emplacement actuel d'Izumiotsu Phoenix, à Osaka, jusqu'à Taiwan et son public d'amoureux de la musique.

Revenir sur les bons moments et l'énergie incroyable nés de la longue histoire de RUSHBALL depuis 1999, y compris les souvenirs de ce festival à Taiwan, est l'une des raisons qui nous a poussés à nous accrocher à l'idée de maintenir l'évènement à Osaka, malgré le contexte délicat.

Il nous a fallu surmonter un grand nombre d'obstacles, tels que la limitation du nombre d'invités, les restrictions sur les performances scéniques ou les négociations avec les citoyens et l'administration. Mais nous sommes finalement parvenus à bâtir cet endroit où chacun a pu jouer et écouter de la musique tout son saoul.

Nous souhaitons continuer à relever le défi de chercher à produire des performances musicales devant un public large.

Nous pensons que de nombreuses mesures peuvent être adoptées pour lutter contre les virus, et pas seulement celui du COVID-19. Nous espérons construire ensemble une nouvelle façon de partager notre amour de la musique, dans un futur aussi proche que possible. Et lorsque les barrières seront tombées et que le monde s'ouvrira à nouveau, nous serons prêts à traverser les mers pour présenter la musique japonaise au monde entier.

Il y a toujours plus d'une façon de faire les choses !

Rikitake, from GREENS, producteur de RUSH BALL 2020

台灣語 / TAIWANESE

日本這個島國，雖然正遭受武漢肺炎帶來的困擾，不管是飲食或是睡眠等日常生活都受到不少制約，但每一個人還是努力尋找著開心快樂的事。

我們相信全世界都一樣，也許是受到來自海外的音樂影響，或是從仿效開始，去創生出全新的音樂。

2020 年的日本夏季，在各種限制之中 RUSH BALL 舉辦了戶外活動。我們盡全力的去做了，要在現今日本，讓人可以用音樂「轟地」灌注身體的戶外音樂祭。

RUSH BALL 在 2018 年跨出了日本大阪泉大津 Phoenix，越過海出發去到台灣，那裡有著熱愛音樂的人們。

這個音樂祭從 1999 年開始，經歷了各種歷史，其中也包含在台灣的那一場，正因為那些意念跟態度，才能化作讓我們撿下去的契機，而舉辦了 2020 年大阪的這場。

從有所管制的觀眾席，到舞台上的演出方式，以及市民還有行政單位等的交涉，我們跨越了重重藩籬，創造出可以讓音樂鳴響，並可以聆聽的場所。我們想在現在的日本，挑戰在 Live House 這種環境中，跟大量的觀眾一同發出轟音。

我們相信不只是因應武漢肺炎，防疫對策有千百萬種。所以我們要竭盡可能的去建構出全新的音樂共享方式，當世界可以再次毫無限制的重新連結起時，我們一定會向全世界介紹日本的音樂。

辦法絕對不只一種！

RUSH BALL 2020 總監 GREENS 力竹

この実施報告書は、通常 BtoB での掲示や資料として出されるものが主ですが
今回の状況は例になく、感染予防対策という新たな試みが全体に散りばめた内容が
多く、未来へ実績や今後のより良き音楽の楽しみ方をみんなで考えていきたいと思い作成します。

まず、英語・フランス語・台湾語でのメッセージを出しました
世界において「フェスティバル」という音楽の関わり方を突然閉ざされた状況下
各国でも新たなフェスティバルの楽しみ方が模索されていくと思います
「日本・大阪・泉大津フェニックスでこのような方法で実施しましたよ!」というメッセージです。

ウイルスという見えないものと対峙する時、1人では進められない、2者では成立しない
三つ巴（参加者全員）で目標をもって安心を得ていかなければならないと実感しました。

2020 年もあと3ヶ月ほど。2021 年のこの日「あんな事があったなあ」と良き方向で
野外フェスが全国各地で開催されることを切に願いながら進めています

イベント概要

RUSH BALL 2020

GREENS 30th Anniversary Special !!!

2020 年 8 月 29 日 (土) ~ 2020 年 8 月 30 日 (日)

各日共、開場 9:30 / 開演 11:00 / 終演 21:00

■主催 :GREENS、読売テレビ

■出演アーティスト

8/29
(SAT)

[Alexandros]/cinema staff/go!golvanillas/KANA-BOON/Saucy
Dog /THE ORAL CIGARETTES/the telephones/ キュウソネコ
カミ /クリープハイプ Opening Act: ハンブレッダース

8/30
(SUN)

BIGMAMA/Creepy Nuts/Dragon Ash/MONOEYES/OAU
/SiM/The BONEZ/TOTALFAT Opening Act:kobore

■来場者数 各日 3000 人~5000 人

【チケット】

- ・大人 (20 歳以上) ¥8,000-(税込)
 - ・未成年 (中学生 ~ 19 歳以下) ¥7,500-(税込)
 - ・KIDS (小学生) ¥3,000-(税込) ※事前予約制
- ※関西 2 府 4 県にお住まいの方限定での抽選受付販売となります。
※すべて電子チケット受け取りのみとなります。

【席種】全自由 (整理番号無し)

※会場内は、前方スタンディングエリアと後方シートエリア

<前方スタンディングエリア> 収容人数約 2,500 名

< 後方シートエリア > 収容人数約 3,000 名

【コロナ対策】

- ・衛生管理や感染予防対策の取り組み強化のためクリーン
パートナーとして【株式会社ダスキン】への要請
- ・ガイドラインは別紙ご確認ください。QR コードからも確認できます。



入場の流れ

1 次ゲート

- ・ Web 問診票提出
- ・ サーモグラフィーによる検温
- ・ 消毒
- ・ 電子チケットチェック
- ・ 手荷物検査

検温 / 消毒とその他の入場手続き
はテントを分けて実施

検温 TIME はスムーズに行っても
2人あたり 10 秒程度

2 次ゲート

- ・ 電子チケットもぎり
- ・ 大阪府のコロナ追跡システムに全員登録後のチェック

関係者手続きは電子チケット / 手荷物検査以外の項目を実施

スタッフ、出演者、関係者にも同じ運用方法で対応した。

備品

- ・ 検温機 (2 名同時に検温) ・ 扇風機 ・ 消毒 (スタンド付き)

WEB 問診票などの認識も悪く入場はスムーズではなかった。
入場口では人数緩和のため規制して調整していた。



会場

スタンディングエリア（間隔約 1m）

スタンディングゾーンの仕切りについて、バリケード、プラ柵、鉄柵等のプランもあったが、無機質な違和感が会場に出るのを避けたいと考え、スタッフで色んな材質を持ち寄り実験して、最終的に芝生に違和感のないグリーンネットと、立ち位置指定のグリーンのリボンでの仕切りとしました。



お客さんは、必ずマスクを着用し、基本歌わない、大声での発声はしない。アーティストのライブが終わる度にエリアから一度退出。座り込みと場所取りを禁止し、入れ出しのオペレーション。熱中症対策としてお客さんを休ませることにもなった。次のアーティストお目当てのお客さんは列に並び直してスタンディングエリアに入る。最初はスタッフが誘導を則していたが、中盤からお客さんが自主的に動いていた。

スタンディングエリア 約 2500 人（1m 間隔）

1 列に対してフェンスラインを設けている

※座り込みの禁止 ※転換毎に規制退場（運営スタッフによる声がけ）

※スタンディング CAPA の管理 ※スタンディングゾーンでのマスク着用の徹底

※一定の距離の確保（フィジカルディスタンス）



シートエリア

カラーコーンとバーで目印を作り、2m目安で適度な間隔を保ってシートを広げて利用可能。距離を保った状態であれば、体調管理の為にマスクを外すことも可能。



日傘可能エリア

日傘は座ってのみ使用可能、シートエリア同様の間隔を空けてシートを敷く。



日除けエリア

譲り合って使用可能



フード・物販エリア

- 飲食出店は10店舗。(通常は25店舗)
- 飲食店はテントをひとつ間に入れて店舗間ディスタンス、テントの後ろを空けて常に換気。
- キャッシュレス支払い推奨、PayPay、楽天ペイ、SUICA、クレジットカード対応。現金受け渡しの場合は前後に消毒。
- 接客はアクリル板越し。
- アルコール販売禁止。



手荷物預かり所



CD 販売／FM ブース



喫煙所



エコステーション



トイレ ※



手洗い場



※クリーンパートナーとしてダスキンと契約、常時清掃して清潔を保つ。トイレの換気対策として、換気扇を追加設置した。

救護（サウンドクリエイターがサポート）



救護所利用者は殆どが熱中症、二日間で40人弱が利用した。症状が治まらず帰宅したのは各日1名ずつでした。昨年よりも利用者は少なかった。理由としてはお客さんが体調を整えて準備万端で来ていたので、寝不足、二日酔い、風邪気味等、体調不良のお客さんがいなかった。関西 MEDICAL 民間救急と、37.5 度以上のお客さんには触らないという規約を作り、医療班がテントに運び検視、検温。症状から経過まで細かくデータ化し、後々まで対策できるようにした。

救急体制強化に関西 MEDICAL 民間救急に協力を得ました。

アーティスト対応

出演者は19組 / 2日間に出演賛同いただきました。直前まで感染の心配や予防対策への問い合わせがあった。主催者から事前にアーティスト、スタッフへのPCR検査や抗体検査の実施要請はしなかった。事前に検査を受けて陰性でも直前や移動途中で感染する場合もあり、検査の正確さを測るのは難しいと判断しました。



転換中ビジョンに各種注意事項など

- ・アーティストは基本的に全ての機材を持ち込み。
- ・ステージマイク (Vo. コーラス) 持ち込みのお願い。
現地機材を使用した場合は細かく清掃を行う。
(例: マイクケーブルを拭き取る、ヘッドの消毒 / 交換等)
- ・スタッフは少人数でのセクション編成をお願いしました。

楽屋はコンテナではなく、テントにして常に換気をしていた。暑いのでスポットクーラーを2台楽屋内に設置。



テントにて対応 (前面は吹き抜け)、消毒系備品も設置 (スプレー / 泡タイプ) こまめな清掃を行った

ワゴンタクシー等の車両を各アーティスト楽屋裏に留め置いて暑い場合は車両に避難してもらっていた。コンテナはドレッシングルームとクーリングルーム用に準備しました。ケータリングはビュッフェ形式ではなく、スタッフがシート越しに提供するスタイル。恒例のお好み焼きとステーキ丼は提供した。アルコールの提供はなし。トイレは水洗、クリーンパートナーとしてダスキンと契約、常時清掃して清潔を保ちました。

アーティストの滞在を短くして、本番が終わってからは長期滞在にならないように会場を出てもらうオペレーションにしました。

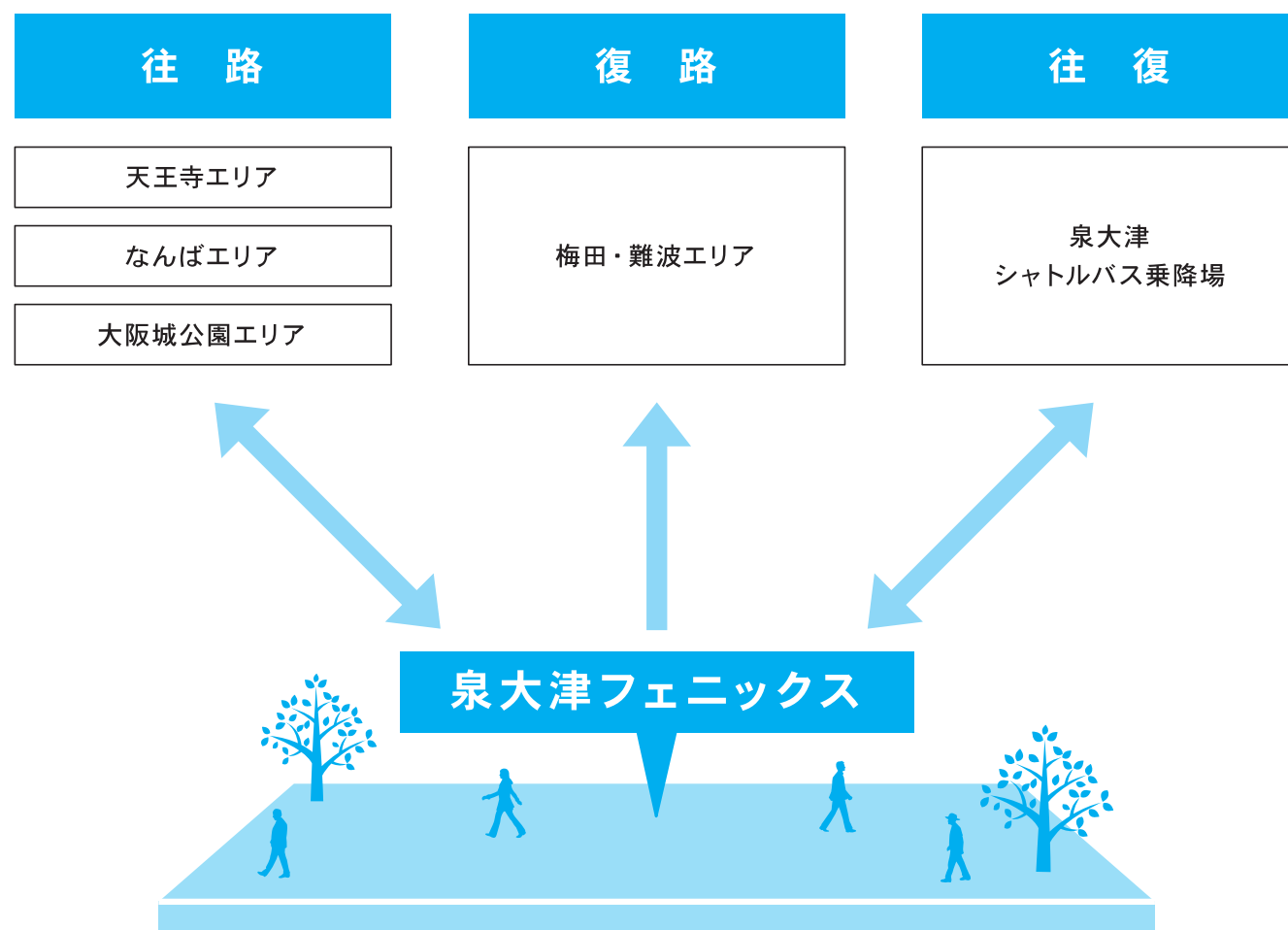
アクセスに関して

RUSH BALL 2020 は今回、アクセス方法としてバスの臨時便を設けることによりシャトルバス利用者の泉大津市中の来場者の遊歩を分散・緩和する計画を実施しました。



バス利用者
臨時便利用 約 1000 名
シャトルバス利用 約 1500 名
(例年約 13000 人利用 /1 日)

- ・各バスチケット・駐車場は各枚数限定販売。
- ・チケットは売り切れ次第終了。



NEWS & REPORT

ニュース掲載記事のリンク ライブレポリンク

<https://www.rushball.com/guideline/>
(実施報告書更新)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/7d159356fd3d6e6a5e176061bde3264ee2eae8e0>
(9月7日ニュース記事)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/9ca5f2ce68e71a5444d8059c6fb851a274a0a837>
(9月14日ニュース記事)

<https://spice.eplus.jp/featured/0000144384/articles>
(オフィシャルライブレポート 8月30日、9月1日更新)

https://honto.jp/netstore/pd-book_30527075.html
(音楽誌「MG」創刊号 9月30日発売)

<https://www.jungle.ne.jp>
(ジャングルライフ WEB レポート 随時更新)

RUSH BALL 2020 ライブ特番
「RUSH BALL 2020 未来」
読売テレビ 10/6(火)25:59~28:02

実績実数抜粋

出演者・出演スタッフ参加数：246名（2日間）

現地スタッフ総数（施工～撤収作業まで）：のべ 1610名（8月24日竣工～9月1日撤収完了）

運営スタッフ総数（会場・駐車場ほか）：のべ 322名（2日間）

衛生管理スタッフ総数：50名（2日間）

協力参加事業者 共 催：読売テレビ
後 援：FM802
舞台監督：有限会社カスタムステージング
ステージ：日本ステージ株式会社
音響・照明・電源：株式会社大阪共立
ビジョン：HIBINO VISUAL
楽 器：有限会社ストレングスビヨンド
音声収録：株式会社 パワーシティー
映像収録：株式会社アッシュ / 株式会社テーク・ワン
テント・備品全般：ジャパンレントオール株式会社
バリケード：株式会社エヌエーシー
運営協力：株式会社 ビーイングプラス
大阪ライブ・エンタテイメント連絡協議会
警 備：関西ユナイトプロテクション株式会社 / 神農
株式会社 U-RIMS
救 護：関西 MEDICAL 民間救急・株式会社アンビュランス
クリーンパートナー：株式会社ダスキン
ごみゼロナビゲーション：iPledge
水道インフラ・仮設トイレ：株式会社オーディーテック

避 雷 ド ー ム：エイトレント株式会社
花 火：葛城煙花株式会社
輸 送 車 両：岸和田観光バス株式会社 / 大阪ジャンボタクシー NETバス運営部
大阪第一交通株式会社
出 店 管 理：株式会社ツー・アンド・フォー
プレイガイド：イープラス / チケットぴあ
学 生 協 力：OSM 大阪スクールオブミュージック専門学校
ロゴ・グッズデザイン：Handsome Design
WEB デザイン：itluc
カ メ ラ マ ン：田浦ボン / 河上良 / Yukihide "JON..." Takimoto
ラ イ タ ー：奥"ボウイ"昌史 / 鈴木淳史 / 後藤愛 / 服田昌子 / 黒田奈保子 / 岡田あさみ
ライブレポート：SPICE
C D 販 売：TOWER RECORDS
グ ッ ズ 製 作：有限会社ブライトライト / tAnkers Inc.
コラボレーションブランド：UMBRO / WILD THINGS
協 力：大阪府港湾局・危機管理部
泉大津市・町内会
泉大津環境衛生事業共同組合
泉佐野みどり推進機

RUSH BALL 2020

2020年8月29日・30日

泉大津フェニックス